



第4号

2007.10.11 発行

大阪府立北野高等学校図書館

## 若手の先生に訊いてみました！

永遠に続くかと思われた長い残暑もようやく終わりを告げたようです。さて、今回は、生徒諸君に比較的年齢の近い(?) 20～30代の先生方に、「最近読んだ中で面白かった本」ということで、短いコメントと共に、何冊かを推薦していただくことにしました。※のついた本は本校の図書館にあります。

### 数学科 T先生

**フェルマーの最終定理** サイモン・シン 新潮文庫  
数学が苦手な人も充分堪能できる本です！

**暗号解説 上・下** サイモン・シン 新潮文庫  
暗号が我々の歴史にいかに大きな影響を与え続けてきたかがよくわかる本です。

**1日1分 英字新聞でプレミアム** 石田 健 祥伝社黄金文庫  
記事の話題が多彩で、楽しく(?) 読めます。

### 国語科 H先生

※ **下流志向** 内田 樹 講談社  
数学科K先生にお借りして読みました。評論ですが読みやすく「学ばない子ども達」のことがよくわかりました。

※ **博士の愛した数式** 小川洋子 新潮文庫  
高校1年の読書感想文で一番よく読まれていました。映画とはストーリー展開がまた違って、もっと優しい雰囲気でした。

### 理科 T先生

※ **模倣犯** 宮部みゆき 小学館  
今、読んでいる最中。700ページ×2の長編ですが、続きが気になり夢中で読んでいます。

※ **チルドレン** 伊坂幸太郎 講談社  
個性豊かな登場人物たちが銀行強盗の被害者となり、、、。登場人物に親しみが持て一気に読んでしまいました。

## 英語科 T先生

- ※ **なんくるない** よしもと ばなな 新潮文庫  
南の島のビーチに行って心が洗われるような、暖かくて優しい気持ちになれる。大切な人と過ごした時間をよい意味で消化できる本です。

## 社会科 A先生

- ※ **真景累ヶ淵** 三遊亭円朝 岩波文庫  
テンポよく進む怪談話の代表格。

**99.9%は仮説** 竹内 薫 光文社新書  
宣伝の通り、頭が柔らかくなります。

**行動経済学** 友野典男 光文社新書  
近年、北野から経済学部に行く人が増えているので、、、。

## 数学科 T先生

**しゃばけ** 畠中 恵 新潮文庫  
とにかく読みやすい。手軽にスイスイ読み進められる、という点では、今年読んだ中でNo1です。

- ※ **アヒルと鴨のコインロッカー** 伊坂幸太郎 新潮文庫  
伊坂幸太郎の小説は読みやすく面白いものが多いと思います。  
つい最近映画化されたこの作品もオススメです。

**量子コンピューター** 竹内繁樹 講談社ブルーバックス  
量子論の知識が殆どなくても、何となくわかった気になります。  
「興味はあるけれど難しそう」と尻込みしている生徒によいと思います。

## 体育科 N先生

**スクラム 駆け引きと勝負の謎を解く** 松瀬 学 光文社  
専門的ですが、ラグビーに興味のある人は是非！試合の見方が変わります。

**ES細胞 万能細胞への夢と禁忌** 大月出 博 文藝春秋  
専門知識がなくても読めます。ES細胞の基礎とこれからがよくわかります。

## 数学科 N先生

**アインシュタイン16歳の夢** 戸田盛和 岩波書店  
アインシュタインの生涯がわかりやすく書かれてあり、読みやすく理解しやすい。.

※ **白い巨塔** 山崎豊子 新潮社  
様々な人間の生き方が細かく描かれていて、非常に面白い一冊だった。

**陰日向に咲く** 劇団ひとり 幻冬社  
読みやすい中にも深みを感じる。全体の繋がりがおもしろい。

※ **食い逃げされてもバイトは雇うな** 山田真哉 光文社  
数学のもつ力が、わかりやすく説明 されていて興味深かった。

## 英語科 H先生

**6 シックス ステイン** 福井晴敏 講談社  
引き込まれて読んでしまう6つの物語。スリリングな展開の中に、人間の悪、弱さ  
いとおしさが描かれている。

**異色作家短編集18 狼の一族** 若島正 編 早川書房  
京都大学の教授で文系、理系をまたぐ経験をもち、テニスや将棋でも有名な方が  
編纂されたアメリカの異色短編集。

**翻訳家の仕事** 岩波書店編集部編 岩波新書  
様々な翻訳家の話をまとめて読める刺激的な新書。

**翻訳を学ぶ人のために** 安西徹雄 井上健 小林章夫編 世界思想社  
「～を学ぶ人のために」シリーズは、多くのジャンル・テーマが出ている。  
高校生には少し難しい所もあるが、翻訳を目指す人は大学のはじめに読んでおく  
と良さそうな本。

**Oracle Night** Paul Auster  
英語で小説に挑戦しようとする人は少ないかもしれませんが、現代アメリカ文学  
で、平易な英語を用いて書くポール・オースターはオススメです。  
彼の本の多くが訳されていますが、この作品はまだ翻訳されていません。  
何社かから発売されており、洋書コーナーに行けば、必ず置いてあります。  
村上春樹が好きな人には、特にオススメ

## 編集者のページ

半ページ余ったので、編集者（50代ですが）が、最近読んだ本から印象に残ったページをそのまま抜き出して紹介することにします。

### ※ 私の夫はマサイ戦士 永松真紀 新潮社

アフリカ、マサイ族の部落へのスタディツアーに参加した日本の学生とマサイ族のジャクソン氏との対話（著者はジャクソン氏と結婚している）

何がそんなに日本の学生を感動させたのでしょうか。彼等に話を聞くと、マサイがそれほど自信に溢れ、何の不安も持たずに生きていることに感銘を受けたのです。夜、たき火を囲み、彼等はたくさんの質問をジャクソンに投げかけたそうです。

（ジャクソン＝J）

「マサイにとって死とは何ですか」

J「終わり。何もない。」

「今まで一番悲しかったことは？」

J「エウノトで選ばれた戦士が最初に髪を剃られた時、身体が震え、涙が止まらなかった。長く美しい髪は戦士活動の証であり、僕等の命だったんだ。」

すべて即答。そのうち、質問は人生に関する内容にまで及びました。

「不安はないですか？」

J「不安は雨のことだけ。雨さえ降れば、ウシも元気だし人間も病氣しない。元気でいられる。」

「人生に迷いはないですか。迷った時はどうするのですか？」

J「ない。もし、わからないことがあれば長老に相談すればよい。長老は正しいことを知っている。だから、何も迷わないし、不安もない。」

あまりにも、確信に満ちて回答するジャクソンに感動し、泣き出す子もいた。

※ エウノト マサイ戦士の卒業儀式 成人式ともいえる

### 「森のイスキア」で話したこと 佐藤初女 宮迫千鶴 創元社

佐藤初女さんは、青森県、岩木山麓の「森のイスキア」という家を拠点に活動されている86歳のおばあちゃんです。イスキアには、全国から様々な悩みを抱えた人がやって来て、そこで、しばらく滞在し、元気をもらって帰っていきます。「イスキア」という名前の謂われについて、佐藤さんはこんな物語を紹介しています。

ナポリの富豪の家にひとりの息子がいました。財力だけでなく、色々な能力も兼ね備えた青年でした。ある日、愛する女性とボートを浮かべている時、愛を告白したところ、すぐに受け入れて貰えました。これで、すべてが満たされたと思った途端、何故か周りが灰色と化し、何もする気力もなくなり、たまらない倦怠感に襲われたのです。何とか、もう一度、以前の生気を取り戻したいと思った時、小さい頃、父に連れられて行ったイスキア島が頭に浮かびました。そこは、今は人の住まない無人島ですが、城のようなものがあつたのを思い出したのです。青年は、一人でこの島に行って自然の中で暮らし始めました。荒れ果てた城に住み、夜になると壊れたガラス窓から月を眺めて暮らしていました。ある時、イスキア島に出かけた探検隊が、島の中に、ただひとつ灯りがついていたので、不思議に思い行ってみると、廃墟の中から生き生きとした青年が出てきました。それから、3年後、探検隊がナポリに行ったついでに青年の家を訪ねたところ、青年は島で会った時よりも、更に元気になって、お父さんの仕事を手伝いながら、社会に奉仕していたというのです。